

キャンプ座間再編と原子力空母と新・相模原市

◆私の注目点

- 米軍関連の二つの大きな動きは「その他」に分類した。
- 県内唯一の平成の大合併は紆余曲折も含めて取り上げた。
- 「国内・国際」には県外に影響が強い事件・事故を、「社会・文化」にはスポーツも含めた明るい話題を意識して選んだ。また全国初となる項目を積極的に取り上げた。
- この年の出来事を「点」や「面」と捉え、さらに過去から現在まで続く「線」を繋ぐことを意識して深掘りした。

◆こんな事がありました

- 米軍関連で陸軍の新司令部のキャンプ座間配置と海軍横須賀基地への原子力空母配備が県民に大きな影響を与えた。
- 相模原市と津久井郡の4町が合併して新しい相模原市へと生まれ変わった。しかし各自治体の足並みが揃わず、苦勞の末、合併は2段階での実現だった。
- 耐震強度偽造発覚によるマンション建て直し、冷凍餃子への殺虫剤混入などの食の安全崩壊が暗い影を落とした一方で、再開したスペースシャトルに県内にゆかりのある宇宙飛行士が次々に搭乗するなどの明るい話題もあった。
- 横浜三越が閉店してヨドバシカメラが入居、小泉元首相の地盤を進次郎氏が引き継ぎ、氷川丸とマリンタワーが経営難で営業を一旦終了する等、一つの時代の区切りであった。

◆年表作成を通して考えたこと・感じたこと

- 一つの出来事を時系列で追いかけることで理解が進んだ。より広い目で俯瞰して担当年を超えて過去の経緯や現在の姿まで調べてみると、意外な発見があって面白かった。
- 例えば日本郵船の豪華客船は2006年に飛鳥から飛鳥IIに入れ替わっている。調べてみると両船は一年違いで長崎で造られた船であり、飛鳥IIが特段新しいわけではない。そして実は飛鳥も名前を変えてドイツの船として2023年も現役で、コロナ禍後に再開した最初の外国クルーズ船として日本に寄港している。
- 神奈川は沖縄に次ぐ米軍施設が多い県である。この年には陸軍と海軍にそれぞれ大きなトピックがあり、県知事や各首長にとっても住民にとっても影響が大きかったが、それに限らず米軍がらみの事件事故が県内各地で多数発生していることを改めて認識した。

【キーワード】

- 原子力空母配備
- 米陸軍新司令部改編
- 新・相模原市誕生
- 耐震強度偽造発覚
- 食の安全崩壊
- スペースシャトル再開
- 老舗百貨店閉店
- 小泉元首相政界引退
- 氷川丸とマリンタワー
- 飛鳥から飛鳥IIへ

【こんな資料を参考にしました】 神奈川新聞以外

- 横須賀市、座間市、相模原市公式サイト
- 日本郵船氷川丸、横浜マリンタワー公式サイト
- 「広域連携・市町村合併」『神奈川県』
- 森川洋「大都市圏における「平成の大合併」」、自治総研 通巻390号 2011/4、P26
- 『わがまち港北』（平井誠二著、わがまち港北出版グループ、2003年）
- 船舶技術協会、船の科学、P54, 1999, vol.45, No.1

過去と「2005年~2008年」と現在(2023年)をつなぐ

2007年の米軍再編で基地の一部変換が決定



図1_元キャンプ座間



図2_元相模総合補給廠

キャンプ座間は旧日本陸軍の士官学校で戦後米陸軍が接收。相模総合補給廠は旧日本陸軍相模陸軍造兵廠で戦後は在日米陸軍の補給基地となる。

2007年に：日米両政府にて「日米同盟：未来のための変革と再編」を合意。米陸軍の司令部再編などに加えて、基地の一部返還が盛り込まれた。

現在は：キャンプ座間は返還された1.1ha分に病院、消防署、自衛隊家族宿舎、公園の整備が完了。相模総合補給廠は2014年に17haが返還され国有地へ。車道の整備は行われたが大部分はフェンスに囲われ未活用のまま。

平成の大合併で誕生した新・相模原市

2002年の住民意向調査では4町とも合併の必要性には賛成であったが、地理的に近い八王子市との合併を望む町もあった。

2007年に：新・相模原市が誕生した。しかし合併の検討で住民や首長の意向から4町の足並みが揃わず、別々に協議を進めた結果、まず2006年に津久井町と相模湖町が、続いて2007年に藤野町と城山町という2段階の合併となった。

現在は：合併により住民が70万人を超えたため、2010年に県内で3番目の政令指定都市に移行した。



図3_新・相模原市
ハッチ部が2段階目に合併

綱島温泉最後の宿泊施設閉館



図4_温泉発見の碑



図5_新綱島駅工事

大正時代に温泉が発見された。東京の奥座敷と呼ばれ、県下有数の温泉街として賑わったが、新幹線の開通等で次第に客足が遠のき、昭和40年代から温泉街は衰退して行った。

2008年に：宿泊施設として最後まで残っていた横浜市教職員互助会「浜京」が閉館した。

現在は：その後残っていた日帰り温泉施設「東京園」も2015年に無期限休業。2023年3月に跡地に相鉄-東急直通線「新綱島駅」が開業した。綱島の町の移り変わりを感じる駅というコンセプトのもと、綱島温泉の歴史もデザインされている。

経営難で閉館した氷川丸と横浜マリンタワー

氷川丸は1930年に横浜船渠で竣工。シアトル航路の貨客船として活躍して1960年に引退後、山下公園に係留されて観光船となる。マリンタワーは1961年にオープン。世界一高いところにある灯台としてギネスブックに登録された。

2006年に：客足減少でいずれも年末に閉館。氷川丸は日本郵船に、マリンタワーは横浜市に引き継がれた。氷川丸は2008年に、マリンタワーは2009年に再オープンした。

現在は：氷川丸は2016年に国の重要文化財に指定され現在も公開中。マリンタワーはその後も改装を重ね、2019年の大掛かりな改装後、2022年に新装オープンした。



図6_日本郵船氷川丸



図7_横浜マリンタワー

参考文献：Webサイトはすべて2023.3.10閲覧

「基地政策」『座間市』 <https://www.city.zama.kanagawa.jp/shisei/kichi/index.html>

「相模総合補給廠」『相模原市』 https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/shisei/1026823/beigun_kichi/1026858/1005626.html

「米軍再編について」『神奈川県』 <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/bz3/cnt/f417563/index.html>

「相模総合補給廠一部返還等」『相模原市』 <https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/area/koikikoryu/citydev/19.html>

「広域連携・市町村合併」『神奈川県』 <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v2x/cnt/f6830/index.html>

森川洋、「大都市圏における「平成の大合併」」、自治総研、通巻390号 2011年4月号、P26

『神奈川における平成の合併記録』、神奈川県、2010年3月

『わがまち港北』（平井誠二著、わがまち港北出版グループ、2003）

「東京園の復活は？幻の楽園「綱島温泉」の痕跡を追う！」『はまれぽ.com』 https://hamarepo.com/story.php?story_id=7228

「【試乗会レポ】東急新横浜線に乗車 新綱島駅もお披露目」『鉄道新聞』 <https://tetsudo-shimbun.com/article/topic/entry-3471.html>

「氷川丸の歴史」『日本郵船氷川丸公式サイト』 <https://hikawamaru.nyk.com/history.html>

『地図と地形で楽しむ横浜歴史散歩』（都市研究会編、洋泉社、2017）